

国内外生徒 英語で議論 オンライン会議 県内28人参加

国内外の中学生や教師らが集う「生徒国際イノベーション」が11日、オンライン上



国内外の生徒たちに英語で自身の研究を紹介する片岡さん＝11日、福井市の羽水高

で始まった。日本をはじめフィリピンやトルコなど9カ国から約300人以上が参加。福井県の高校からは

羽水、敦賀、若狭、勝山、鯖江、丸岡の6校の計28人が加わり、12日まで、日頃の活動や研究について英語で発表し意見交換する。OECD(経済協力開発機構)日本イノベーション教育ネットワークの国際プロジェクト「地方創生イノベーションスクール2030」の一環。新型コロナウイルス感染症拡大により、ビデオ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を使つての会合となった。羽水高からは4人が参加した。片岡礼央菜さん(3年)は「エコバッグの利用を高校生に広めるには」と

題し、調査の結果や解決策などをスライドを使つて説明。県内企業を訪問した経験から、デザイン性の高いバッグを作ることを英語で提案した。参加者から質問や感想が寄せられ、ジェスチャーを交えながら答えた。片岡さんは「必死に伝えようとすると、相手も理解しようとしてくれる」と手応えを感じた様子だった。「環境問題への学びと対策」や「学校での精神的・身体的な健康」など11テーマについてグループごとに討議し、参加者間の交流も行われた。(永善菜々帆)